日本全国各地発！中小企業のODA

Series

ODA NOW

vol.8 OSAKA

事業実施前の病院の設備。種類別のバケツによる消毒・洗浄が行われていた。

医療従事者を対象とした、洗浄消毒機器の現地指導の様子。

TICAD Ⅵ出展ブースでの記念写真。ODA事業完了後も、ウガンダの医療衛生への貢献を継続している。

洗浄消毒機器の導入と併せて、病院における感染対策などのレクチャーも行った。

持続可能な社会貢献で ウガンダの医療現場を支える

ウガンダ

「感染症予防を目的とした全自動医療器具洗浄消毒器導入に関する普及・実証事業」

2013年12月～2016年11月

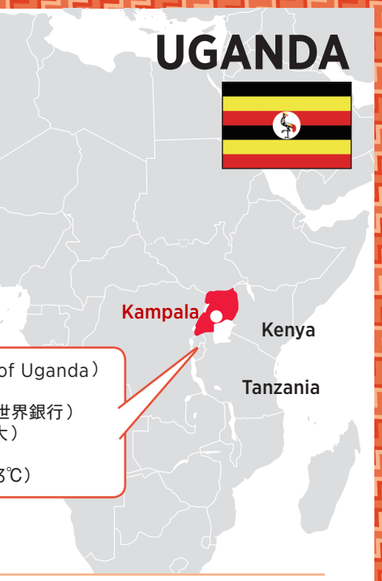
大阪府　サラヤ株式会社

世界の“衛生、環境、健康”への貢献(注1)を掲げ、国内外で石鹸や消毒液の製造・販売を展開するサラヤ株式会社。同社はウガンダにおいて、感染症予防を目的とした「全自動医療器具洗浄消毒機器」導入のJICA民間連携事業に取り組みました。事業参加への経緯や思いを、同社の北條健生さんにうかがいました。

Episode

「ウガンダの父」と呼ばれた日本人

ワイシャツづくりを通じて日本とウガンダの交流に貢献した柏田雄一氏は、「ウガンダの父」と呼ばれる伝説的な人物です。作家の山崎豊子さんの著作「沈まぬ太陽」アフリカ篇に登場する「富士ワイシャツ」の工場長は柏田氏がモデルです。また、今井通子さんのノンフィクション作品「ウガンダの父とよばれた日本人」でも紹介されています。



ウガンダ共和国（Republic of Uganda）
首都：カンパラ
人口：4,427万人（2019年 世界銀行）
面積：24.1万㎢（ほぼ本州大）
気候：サバンナ気候
（年間平均気温：約23℃）

乳幼児の10人に1人が亡くなるウガンダ

東アフリカの熱帯地域に位置するウガンダは、マラリアなどの感染症の発生地となっており、5歳未満児の年間死亡数（2018年）は約74,000人に上っています。そのためウガンダ政府は、医療･保健サービスの改善を喫緊の課題としていました。

こうした問題の解決に、当社の医療器具洗浄消毒ノウハウが役立てるのではないかと考え、JICAの民間提案型普及･実証事業に応募しました。当社は2010年より、ユニセフが進める手洗い促進活動に参画し、ウガンダで「100万人の手洗いプロジェクト(注2)」や「病院での手の消毒100％プロジェクト」を展開しています。JICAの普及･実証事業は、その活動の延長線上にあるものといえます。

医療現場の疑問と不安の解消に努める

しかし、同事業の実施には大きな問題がありました。ウガンダでは、医療器具洗浄のガイドラインは定められているものの、資材や人材の不足、担当者の知識不足などにより、ほとんど守られていないのが実情でした。その解決策として、洗浄消毒機器の導入を提案しましたが、現地の医師や看護師からは「今の方法では駄目なのか」「面倒だ」「仕事が増える」といった消極的な反応が多数返ってきました。道具の使い方を伝える前に、まず洗浄･消毒の大切さを理解してもらう必要があったのです。

そこで行ったのが、講習会や研修などによる啓発です。JICAのサポートを受けながら、病院関係者を対象とした感染管理セミナーやメンテナンス講習会を何度も開催し、医師や看護師の疑問や不安の解消に努めました。また、保健省や地域中核病院の管理者･感染管理担当者を対象とする教育コースを設けるとともに、病院の経営管理者に対しても日常のメンテナンス指導や感染管理に関する研修を実施しました。これらを繰り返し行った結果、試験導入した4病院（12の病棟･手術室）では機器の使用頻度も大幅に増え、当社の名前も「サラヤって何？」から、「サラヤした？」と洗浄消毒の代名詞として使われるようになりました。

支援活動とビジネスは表裏一体

その後はまだ機器の本格的な採用には至ってはいませんが、手洗いプロジェクトから洗浄消毒機器の導入などの一連の啓発活動により、医療関係者の衛生意識が向上するとともに、サラヤの認知度と信頼度も大きくアップしました。隣国コンゴ民主共和国でエボラ出血熱が発生した際には、ウガンダ政府の国家対策会議にJICAとともに当社も呼ばれ、緊急対策メンバーの一員として感染対策に奔走することになりました。

今後は機器の本格採用を目指すだけでなく、サブスクなどのサービスを付加した新しいビジネスモデルを考えていきたいと思っています。

国際協力は「支援活動か、ビジネスか」という問いをよく耳にします。しかし、支援活動とビジネスは二者択一ではなく、表裏一体の関係にあると思います。支援活動を継続していくには、ビジネスとして成り立たっていなければなりませんし、ビジネスを成功させるためには現地に根付いた地道な社会貢献活動が必要です。ビジネスになるか、ならないかはタイミングだけの問題です。そのタイミングを前倒しにすることが私たちの仕事だと思います。それが実現できれば、多くの命も救うことができると考えています。

サラヤ
海外事業本部
アフリカ開発室 室長
北條 健生氏

（注1）“衛生、環境、健康”への貢献
サラヤはウガンダをはじめ、マレーシア・ボルネオ島などにおいて、環境保護や国際協力など、さまざまな社会貢献活動を行っています。その取り組みはSDGsビジネスの一例として、高等学校教科書「新詳地理B」や小中学校副教材「SDGsスタートブック」などに掲載。また、テレビ東京の「ガイアの夜明け」や「カンブリア宮殿」でも紹介されています。

（注2）100万人の手洗いプロジェクト
対象となるサラヤ衛生製品の売上の1%（メーカー出荷額）を日本ユニセフ協会に寄付し、ウガンダの手洗い促進活動を支援するプロジェクト。本プロジェクトの取り組みにより、同国の一般家庭における手洗い普及率は14%（2006-07年）から、38%（2019-20年）に向上しています。

会社名：サラヤ株式会社
本　社：大阪府大阪市東住吉区
設　立：1959（昭和34）年
代表者：代表取締役社長　更家 悠介
従業員：1,524名（2019年10月末現在）
事業内容：家庭用及び業務用洗浄剤・消毒剤・うがい薬等の衛生用品と薬液供給機器等の開発・製造・販売など

https://www.saraya.com/

ODA 事業の情報

本記事の事業は、日本政府（外務省）と国際協力機構（JICA）が連携して進める「中小企業・SDGsビジネス支援事業」として採択されたものです。詳しくはJICA「民間連携事業」ページでご確認ください。
https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html